

8. シリア

一般事情

位置：北緯32度～37度、東経35度～42度、西はレバノン、180kmに及ぶ海岸で地中海、北はトルコ、東はイラク、南はヨルダンとイスラエルに接している。

面積：18.5万km²（日本の約半分）

人口：1,208万人(1989)

首都：ダマスカス

人種：アラブ人88%、他にアルメニア人、クルド人

言語：アラビア語（公用語）

宗教：イスラム教85%、（スンニー派70%、アラウィ派12%）
キリスト教13%

略史：1918年 オスマン・トルコより独立

1920年 仏の委託統治領となる

1946年 仏より独立

1) 政治・経済・民生の動向

政治：共和体制

元首：ハーフェズ・アサド大統領（1985年から第3期、任期7年、'92年1月再選、3月から第4期に入る）

議会：一院制（250議席 '90年5月選挙 任期4年）

政府：首相名 マハムード・アル・ゾアビー（'87年11月就任）

議会：一院制 ファルーク・アル・シャラ（'84年3月就任）

内政：アサド大統領は'70年11月の政権掌握以来今日に至るまで長期安定政権を維持。但し、国内多数派スンニー派の少数派アラウィ政権に対する不満、大統領の健康問題、後継者問題が内政の恒常的不安定要因。

'87年10月、カセム首相が経済政策の失敗、官僚の腐敗等により辞任した後、人民議会議長ゾアビーが首相に就任。経済政策として民間活力が導入される一方、'90年5月には人民議会選挙が実施された。

外交基本方針：

アラブ民族主義、反帝国主義、非同盟主義を3本柱。

中東和平問題、レバノン平和問題、ポスト湾岸危機等中東情勢の鍵を握る重要な立場。

域内での孤立回避から'89年12月にエジプトお国交回復。

ソ連との緊密な軍事関係はペレストロイカの進行により変化。

イラクのクウェイト進行では多国籍軍に参加。

軍事力：

予算 24.90億ドル（1989年度）

兵役 徴兵制度30カ月

担当：牛腸 英夫

兵力 40.4万人

経 済 (単位 米ドル '89年)

主要産業 : サービス業51%、農林水産業38%、鉱工業11%

GNP : 124.4億ドル (1人当り、1,020ドル)

経済成長率: 5.4%

物価上昇率: 11.4%

失業率 : 不明 (大学卒業生がなかなか就職できない)

貿易 :

輸出 28.1億ドル

主要輸出品=織物、原油、石油製品

主要輸出先=ソ連、伊、仏、サウディ、ポーランド

輸入 18.2億ドル

主要輸入品=食料品、金属製品、機械及び装置

主要輸入元=仏、独、トルコ、伊、ソ連

通貨 : シリア・ポンド

1ドル= 11.23シリア・ポンド (公定レート、1989年)

22.00シリア・ポンド (奨励レート、1989年)

5,000.00シリア・ポンド (闇レート、1991年)

経済概況 : '82年以降、経済成長は鈍化。アラブ産油国からの援助減少により、外貨不足は深刻化するも、石油輸出等により貿易収支は黒字に転化。

経済協力

主要援助国: 西独、日本、仏

我が国の援助: ('89年度末まで)

有償資金協力 452.38億円

無償資金協力 3.40億円

技術協力 39.31億円

*なお、'91年6月、総額648,68億円の有償資金協力 (ジャンダール火力発電所計画、商品借款) につき、交換公文が締結された。

2) 農林業動向

地形

シリアの地形はかなり変化に富んでおり、地中海とそれに迫る山地、その南方オロンテス川流域などは、緑も豊かで、日本に似た風景であるが、中央部から東部、東南部にかけは、いわゆるシリア砂漠が広がり、褐色や時には灰色の荒涼たる眺めを呈する。しかし、シリア、の砂漠は砂に覆われている所はむしろ少なく、小石の多い荒れ地がほとんどで、緑はあまりみられず、枯れたような灌木や、土にしがみついたような雑草がところどころにみられるばかりであるが、年に1回、春の数週間にはこの荒地にも幾種類かの花が咲き、見違えるようになる。

気候

地中海沿岸は地中海性気候、内陸部は雨量が少ない。ダマスカスは寒暖の差が大きく、夏季 (5~9月) には日陰で40度以上に、冬季 (11~2月) には氷点下になるほか、高原部では積雪

もある。また、日中と夜間の温度差が大きい。なお、84年度の統計では、ダマスカスの年間平均気温は16.0度、夏季平均24.7度、冬季平均7.5度であった。

また、ダマスカスは、11月から4月までの雨期には時々雨が降るが、年間降雨量は150ミリ～250ミリ程度で、乾燥している。

耕地面積：	全 土	18,518千ha	
	土地面積	18,406	
	耕地・永年作物	5,560	30%
	(耕地)	4,947	(89)
	(永年作物)	613	(11)
	永年牧草地	8,231	45
	森林・林地	543	3
	その他の土地	4,072	22

農業人口：2,977千人（全人口1,200万人の25%）

表1 農業生産指数（1人当り）

		1978	1980	1982	1984	1986	1988	1989
食物	シリア	90.8	84.2	107.8	102.9	100.4	110.1	64.4
	トルコ	100.3	99.6	101.9	95.8	99.1	101.3	92.0
農業	シリア	93.2	106.9	109.2	90.1	100.6	109.6	67.6
	トルコ	100.0	99.9	101.5	95.9	98.2	101.2	91.9
作物	シリア	96.0	113.8	102.2	84.4	98.3	198.8	60.0
	トルコ	100.4	100.6	102.7	98.9	103.0	107.6	94.4
畜産物	シリア	83.3	96.9	113.8	107.7	98.5	98.0	87.9
	トルコ	101.5	97.5	99.7	94.9	95.7	93.3	91.3
穀物	シリア	86.0	128.2	69.3	38.3	85.8	122.0	28.3
	トルコ	100.8	96.1	101.2	94.5	100.9	101.6	74.9

注：FAO yearbook Production Vol.43 1989 より

表2 シリアの農産物の収穫面積（千ha）

	1979～'81	1987	1988	1989
コムギ	1,383	1,183	1,101	871
オオムギ	1,220	1,570	1,844	859
トウモロコシ	21	36	49	62
雑豆	220	241	297	291
ヒヨコマメ	65	84	83	34

	1979～'81	1987	1988	1989
ラッカセイ	10	11	11	11
ヒマワリ	7	15	19	10
ゴマ	36	34	25	14
綿実	146	129	171	158
トマト	34	36	35	28
西瓜	91	73	62	31
ブドウ	99	115	114	110
西洋梨	10	14	21	13
オレンジ	35	105	136	148
シュガービート	21	18	10	7
タバコ	13	15	14	15

FAO yearbook Production Vol.43,1989 より

シリアにおける1981までの10か年間の食糧自給率は98%、肉類の自給率は94%である。1989年の食物生産指数（一人当たり）はアジアの中でシリアが最も低い。

この国の耕地1ha当りの収穫量は827kgでタイの半分以上、トルコの約1/3で土地生産性が極めて低い。穀物生産の主体は地中海沿岸を離れて内陸の砂漠にいたる中間の地帯で、乾燥地農業の厳しさが食物生産指数に現れている。

3) 農林技術動向

表3 シリアにおける5農業生態地域の土地利用(1982)¹⁾ (単位：千ha)

生態地域	作付地	非作付地休閑	非農用地	ステップ ^o 牧草地	森林	合計
1	1,311	424	468	193	299	2,695
2	1,077	881	356	143	10	2,465
3	487	446	200	182	7	1,322
4	601	402	182	657	5	1,847
5	511	55	2,314	7,137	170	10,187

注：¹⁾ Statistical Abstracts(1983) より

表4 シリアの5農業生態地域の降水量と作目

生態地域	降水量	作付作物と畜産
ゾーン1a	600mm>	各種作物が栽培
ゾーン1b	350～600mm	コムギ、ヒヨコマメ、レンズマメ、果樹、野菜、無灌漑夏作物
ゾーン2	250～350mm	オオムギ、コムギ、食用豆科作物、夏作物、家畜が重要性を増してきている
ゾーン3	250mm	オオムギ、家畜、コムギ、食用豆科作物、
ゾーン4	200～250mm	オオムギ（飼料用）、家畜
ゾーン5	200mm<	牧草地（耕地として使用されないところ）

注：ICARDA-119 Ar, En より

表5 シリアの農産物の収量の推移 (kg/ha)

	1979～'81	1987	1988	1989
コムギ	1,371	1,400	1,878	1,171
オオムギ	904	367	1,538	315
トウモロコシ	2,068	1,601	1,831	1,752
雑豆	799	713	1,016	426
ヒヨコマメ	722	512	662	382
ラッカセイ	1,833	2,152	1,991	1,818
ヒマワリ子実	1,609	979	779	1,500
ゴマ子実	529	367	448	529
綿実	2,337	2,727	2,763	2,728
トマト	17,533	15,832	18,907	17,932
西瓜	8,228	7,053	7,695	3,360
ブドウ	3,550	3,750	4,986	3,864
西洋梨	21	34	51	47
シュガービート	21,362	25,697	21,356	16,571
タバコ	959	1,113	1,069	1,176

FAO yearbook Production Vol.43 1989 より

農業用トラクターの保有台数は1988年で54,900台であるが、現地ではムギ等の穀物の栽培されるところと思われるほとんどの耕地は、トラクターの耕耘のあとがみられた。このことからみても、大面積の穀物栽培では、耕耘作業はトラクターで実施出来る台数が普及しているものとみられる。

肥料の消費量は1986年で、窒素144千トン、リン酸95千トン、加里7千トンで、耕地1ha当り使用量は43.5kgで、フィリピン42.5kg、エクアドル40.9kg、チリ40.0kg、ウルグアイ47.1kgなどとはほぼ同じで、トルコ60.4kgより低い。

4) 国立農業研究機関(NARS)の現状分析

シリア国立農業試験場はAgricultural Research Centerだけである。他に、1971年にアラブ同盟諸国により設立された乾燥地域研究組織 Arab Center for the Studies of Arid Zone and Dry Area (ACSAD)がある。また、ほかにCGIAR傘下のInternational Center for Agricultural Research in the Dry Areas (ICARDA)がある。

したがって、シリアの農業研究はICARDAやASCARDに大きく依存している。

農学部を持つ大学はダマスカス大学とアレppo大学で、訪問したアレppo大学農学部では農場が、農業研究センターと呼ばれており実用的な研究を中心とし、国立の農業試験場的な役割も果しているように見受けられた。

5) 研究ニーズ

食用作物（コムギ、オオムギなど）の耐干性の強化

Triticaleの改良

家禽の飼料の改良

果樹の耐干性の強化

羊の繁殖法の改良

果樹の隔年結果に関する研究

柑橘類のウイルス病抵抗性の強化

6) 共同研究のアプローチ

国立農業試験場を訪問できなかったが、訪問したダマスカス大学農学部及びアレppo大学農学部では、研究室の施設、機械、器具が極めて少なく、まだ、共同研究できる状態とはいえない。

この国のICRDAに対する依存度からみても、直接、国立の研究機関や大学との共同研究を考えるよりも、国際研究機関のICARDA を通じて、この地域の農業問題の研究や研究協力を考えていくことが現実的であると考えられる。

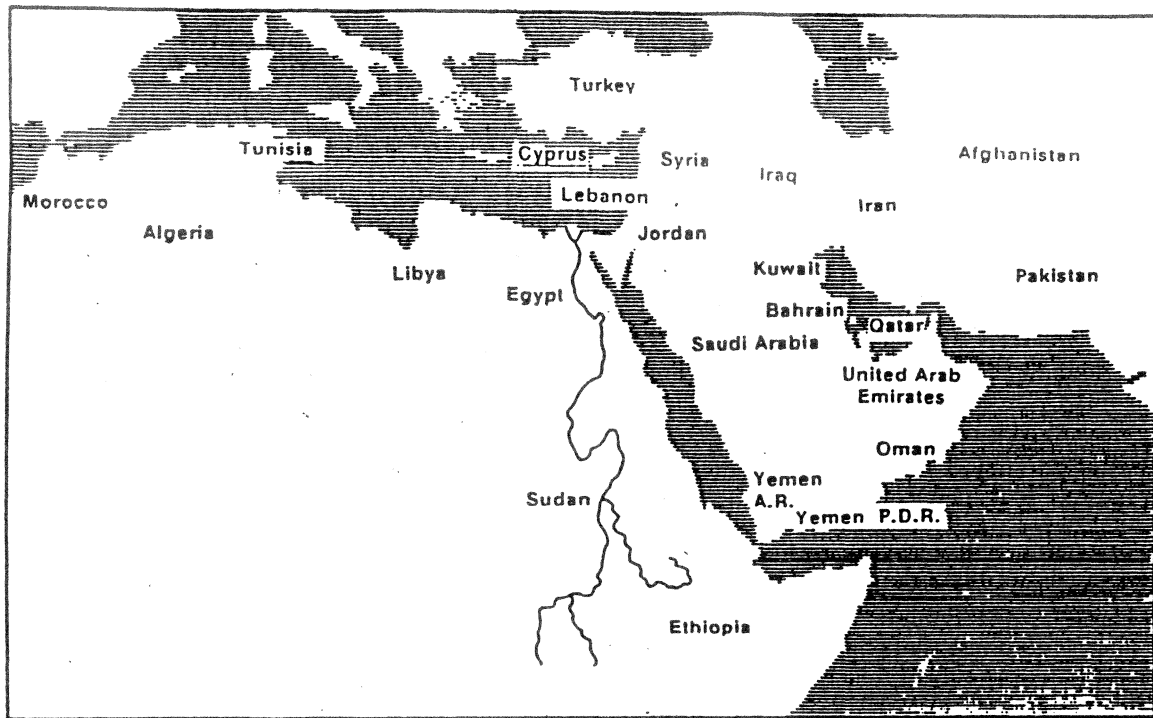
国際研究機関ICARDA (International Center for Agricultural Research in The Dry Areas)

ICARDAは、西アジア・北アフリカの乾燥地域の農業生産を研究対象しており、オオムギ、ヒラマメ及びソラマメについては国際的な責任をもち、コムギ及びヒヨコマメについては地域的な責任をもつ研究機関である。

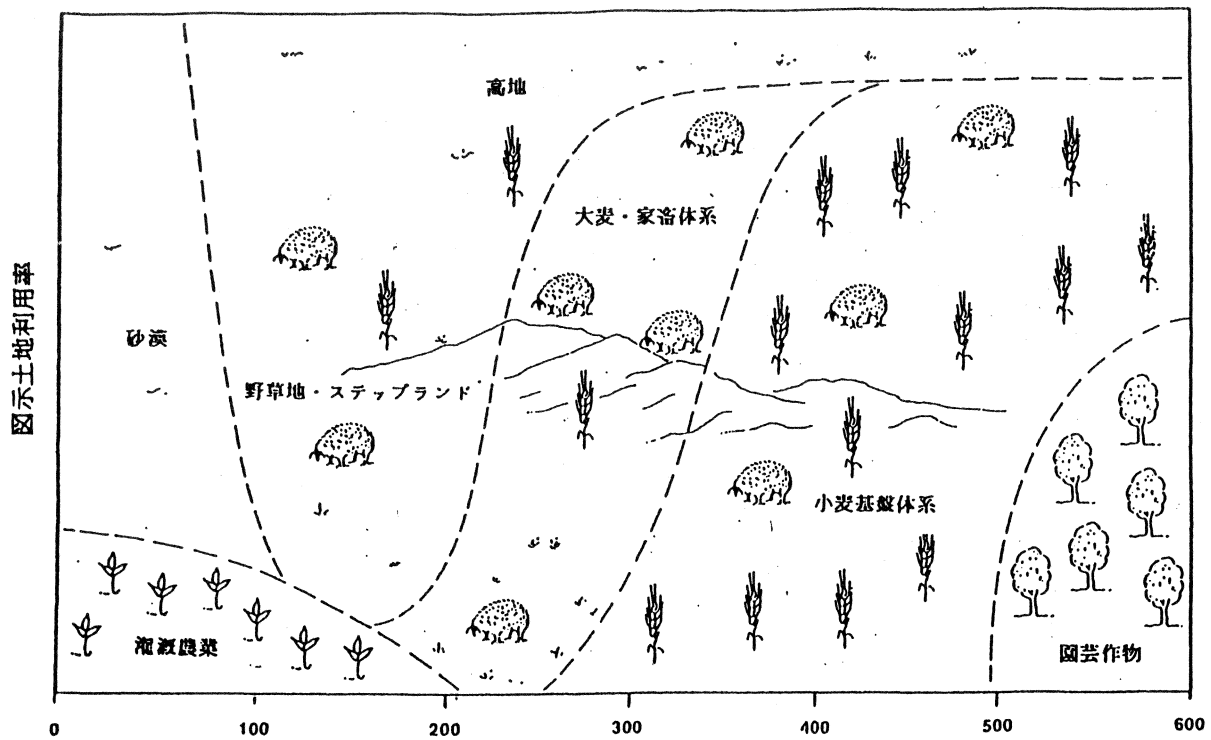
7) 共同研究実施上の問題点

ICARDA当局は、直接、熱研の研究者や訪問者には言わないが、MOUを結んだ後の、研究者派遣がスムーズにいかない点で、ICARDA側のTARCに対する批判があるようである。国際研究機関のICARDAに対しては、国立研究機関の対応と異なった対応が必要であろう。

ICARDAが研究対象とする西アジア・北アフリカ地域



西アジア・北アフリカにおける主要農業生態地帯区分



ICARDA: Medium-term Plan 1994-1998

(1993)より転載